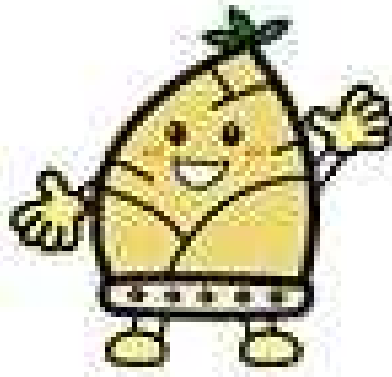


令和3年度

学校評価



阿南市立福井中学校

令和3年度調査

1 回答者

実施日 令和4年1月11日（火）～1月19日（水）

生徒33名（在籍33名） 保護者31名（回収率100%） 教職員13名

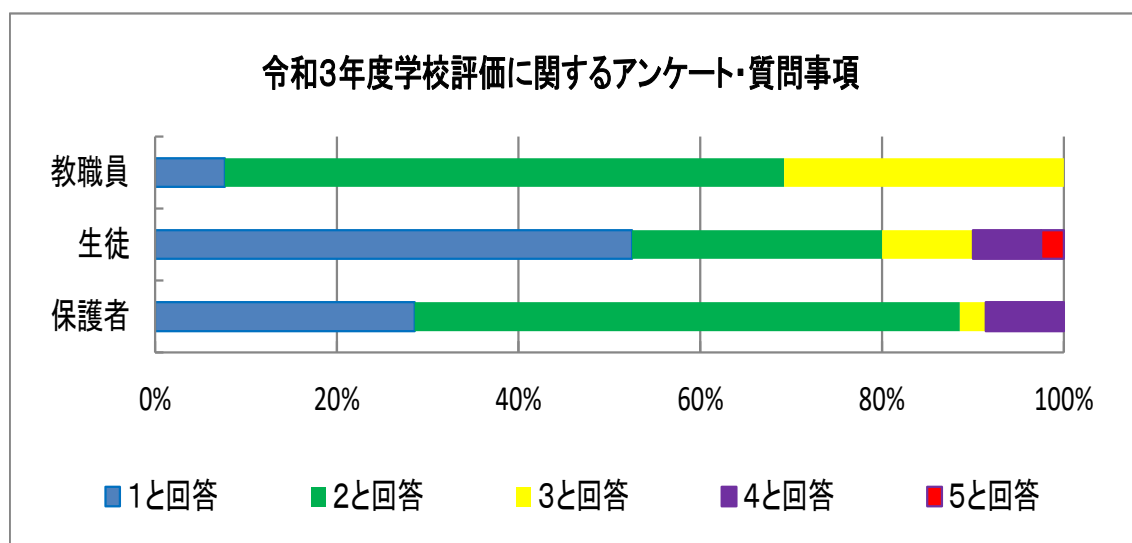
2 回答方法

各質問事項に対して、「そう思う」は1,「ほぼそう思う」は2,「どちらともいえない」は3,「あまり思わない」は4,「思わない」は5の5段階で回答していただき,「そう思う」「ほぼそう思う」を肯定的意見,「あまり思わない」「思わない」を否定的意見として,調査結果を分析しました。

3 結果の活用

調査結果は2月上旬に取りまとめ,全ての教職員に配布して課題や改善点を明らかにしました。そこから得たものを4年度の学校運営や教育方針,さらに重点目標に反映させていきます。

また,保護者や学校評議委員の方にも調査結果をお示ししてご助言をいただき,改善すべき点は積極的に改善するよう努めていきます。



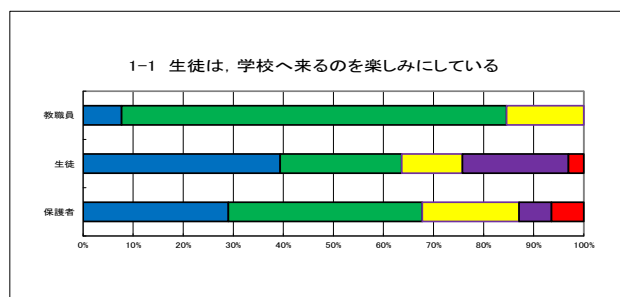
割合については,少数点第1位を四捨五入して表記していますので合計が100%になっていないことがあります。

1 学校生活に関すること

【1-1】生徒は、学校へ来るのを楽しみにしている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	1 (8%)	10 (77%)	2 (15%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	13 (39%)	8 (24%)	4 (12%)	7 (21%)	1 (3%)
保護者	9 (29%)	12 (39%)	6 (19%)	2 (6%)	2 (6%)

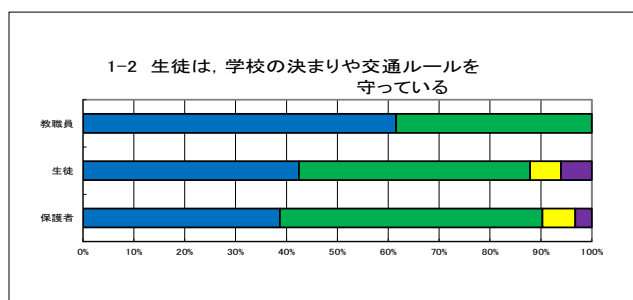
「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「思わない」と答えた生徒の回答が12名あり、教職員との意識のずれがあった。生徒をよく観察し、配慮が必要なときには手を差し伸べることができる体制を整えていきたい。また、生徒がコロナ禍の中、不安やストレスを抱えていることも予想される。制限のある中ではあるが、授業や行事を工夫して、生徒が楽しいと思える学校をつくってきたい。



【1-2】生徒は、学校の決まりや交通ルールを守っている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	8 (62%)	5 (38%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	14 (42%)	15 (45%)	2 (6%)	2 (6%)	0 (0%)
保護者	12 (39%)	16 (52%)	2 (6%)	1 (3%)	0 (0%)

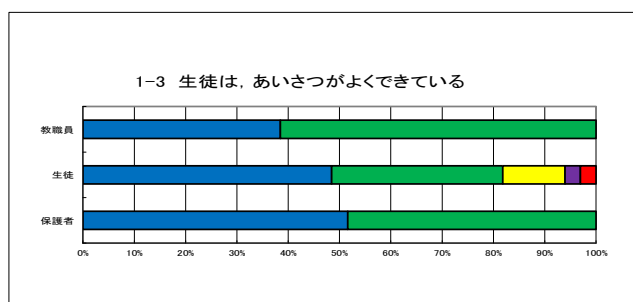
ほとんどの生徒が学校の決まりや交通ルールを守ることができている。生徒たちは時間を守るなど、規則正しい生活を送ることができていた。交通面では、登下校において事故0であったが、自転車の並進や安全な間隔の確保などの課題も見られた。交通安全に気をつけることは命に関わることなので、今後も事故防止に向け指導の徹底を図ってきたい。



【1-3】生徒は、あいさつがよくできている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	5 (38%)	8 (62%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	16 (48%)	11 (33%)	4 (12%)	1 (3%)	1 (3%)
保護者	16 (52%)	15 (48%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

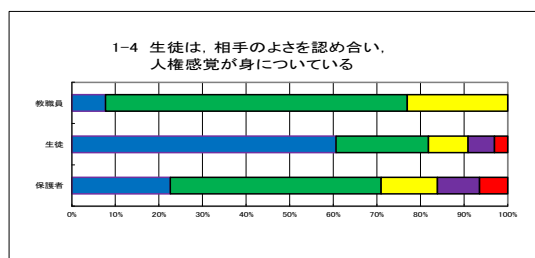
教職員・保護者では全員が肯定的な回答となっている。普段の学校生活や部活動等で校外へ行く場合もきちんとあいさつをする様子が見られた。今後は、朝の「おはようございます」だけでなく、時と場合に応じたあいさつや返事ができるように生徒に指導してきたい。そのため教員が模範となるよう実践してきたい。



【1-4】生徒は、相手のよさを認め合い、人権感覚が身についている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	1 (8%)	9 (69%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	20 (60%)	7 (21%)	3 (9%)	2 (6%)	1 (3%)
保護者	7 (23%)	15 (48%)	4 (13%)	3 (10%)	2 (6%)

教職員・生徒・保護者で70%以上が肯定的な回答となっている。伝統的な人権劇・ミニ人権劇への取り組みに対する思いの強さが表れているように感じられる。生徒・保護者の中には少数ではあるが否定的な回答も見られた。来年度以降はさらに改善されるように、人権感覚を磨いていけるような取り組みを学校全体で地域との関わりも深めながら行っていきたい。

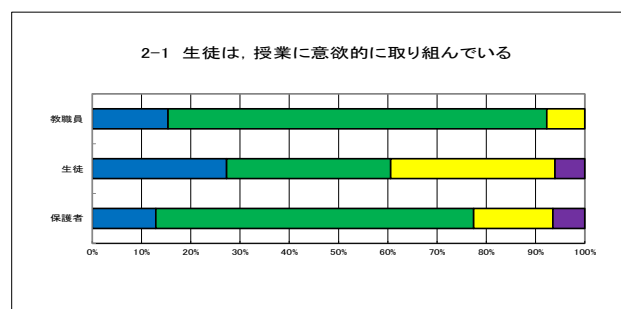


2 学習に関すること

【2-1】自分は授業に意欲的に取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	2 (15%)	10 (77%)	1 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	9 (27%)	11 (33%)	11 (33%)	2 (6%)	0 (0%)
保護者	4 (13%)	20 (65%)	5 (16%)	2 (6%)	0 (0%)

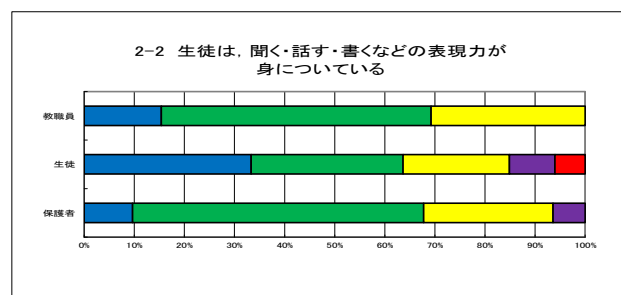
教職員の「できている」という回答は約90%、保護者の回答も約80%であり、生徒たちが意欲的に学習に取り組んでいるという印象を教職員、保護者が持っていると言える。その一方で、33%の生徒と16%の保護者が「どちらとも言えない」、6%の保護者・生徒が「どちらかといえばできていない」と感じていることが分かる。全ての生徒が授業に意欲的に取り組むことができるように、授業の組み立て方や指導方法の工夫、また、個に応じた指導を心掛けながら、生徒が目的意識をもってより意欲的に取り組めるようにしていきたい。



【2-2】生徒は、聞く・話す・書くなどの表現力が身についている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	2 (15%)	7 (54%)	4 (31%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	11 (33%)	10 (30%)	7 (21%)	3 (9%)	2 (6%)
保護者	3 (10%)	18 (58%)	8 (26%)	2 (6%)	0 (0%)

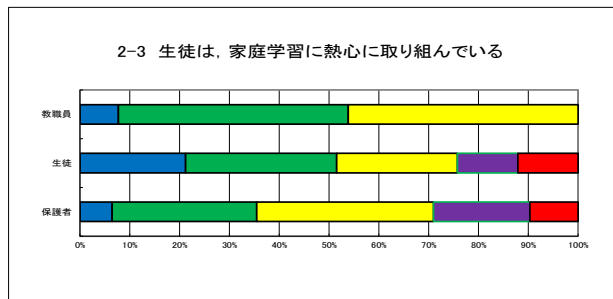
「身についている」と肯定的な回答をした割合は、教職員69%、生徒63%、保護者68%で、三者ともに約7割であった。一方、「身につけていない」と回答したのは教職員が0名であったのに対し、生徒が5名、保護者が2名で、教職員と生徒・保護者間で意識の差が見られた。「聞く・話す・書く」などの表現力を身につけさせるため、授業における課題設定や授業形態の工夫等に加え、学校生活の中で表現力を養う場面を多く設定していきたい。



【2-3】生徒は、家庭学習に熱心に取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	1 (8%)	6 (46%)	6 (46%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	7 (21%)	10 (30%)	8 (24%)	4 (12%)	4 (12%)
保護者	2 (7%)	9 (29%)	11 (35%)	6 (19%)	3 (10%)

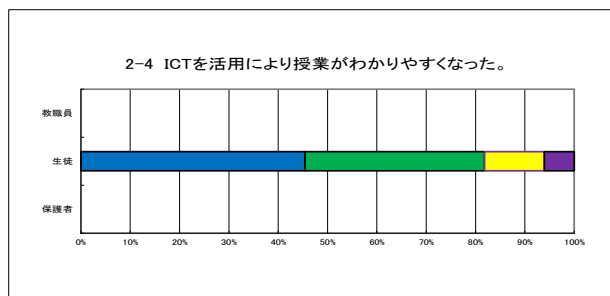
「そう思う」「ほぼそう思う」と教職員・生徒の半数以上が回答している。しかし、保護者・生徒で、「そう思わない」「思わない」という回答が30%近くある。家庭学習の時間が、宿題だけに終わっている生徒がいることが考えられる。まず家庭学習の意義を確認し、次にすべき内容を考える時間の確保をするなど、主体的な家庭学習にする必要がある。



【2-4】ICTを活用した教育によって授業がわかりやすくなった。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
生徒	15 (45%)	12 (36%)	4 (12%)	2 (6%)	0 (0%)
保護者	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)

約80%の生徒がICTの活用により授業が分かりやすくなったと回答していることから、GIGAスクール構想も概ね実現されていると思われる。4月から生徒1人1台のiPad使用が可能になり、個別で行う学習内容が深まった。「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」と感じている少数生徒に対して、その原因を探り、より丁寧な個別支援ができる体制を整えたい。

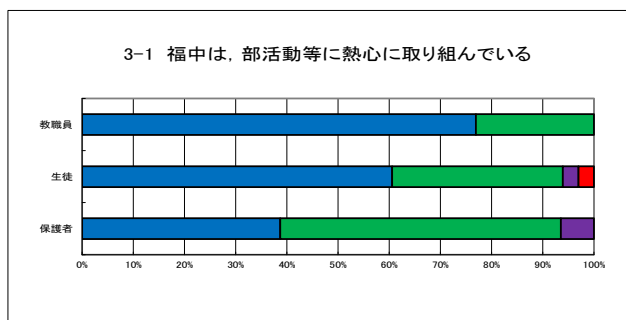


3 体力づくりに関すること

【3-1】福中は、部活動に熱心に取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	10 (77%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	20 (61%)	11 (33%)	0 (0%)	1 (3%)	1 (3%)
保護者	12 (39%)	17 (55%)	0 (0%)	2 (6%)	0 (0%)

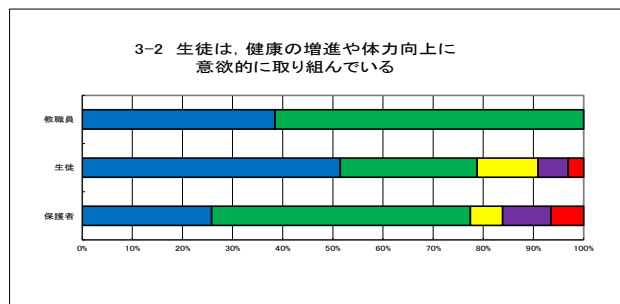
「そう思う」「ほぼそう思う」と生徒・保護者の90%以上が回答しており、教職員については100%が回答している。全体的に部活動に熱心に取り組むことができている。しかし、生徒・保護者の中にはごくわずかではあるが、「あまり思わない」「思わない」と回答している人もいる。保護者や生徒に部活動の意義や運営方法について理解を図るとともに、今後も安心・安全に活動できる部活動運営の工夫に努めていきたい。



【3-2】生徒は、健康の増進や体力向上に意欲的に取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	5 (38%)	8 (62%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	17 (52%)	9 (27%)	4 (12%)	2 (6%)	1 (3%)
保護者	8 (26%)	16 (52%)	2 (6%)	3 (10%)	2 (6%)

全ての教職員は、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答。生徒・保護者についても75%以上が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答しており、その割合は昨年度より15%も増えた。生徒一人一人が健康の増進・体力向上に意欲的に取り組んでいると思われる。今後も健康教育の充実に取り組むとともに、心と体の健康について個別指導を行っていきたい。

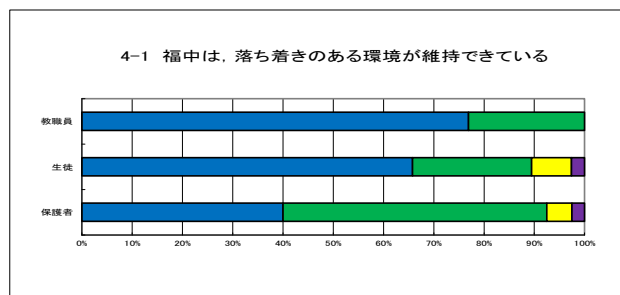


4 学校の環境に関すること

【4-1】福中は、落ち着いた環境が維持できている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	9 (69%)	4 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	18 (55%)	8 (24%)	5 (15%)	2 (6%)	0 (0%)
保護者	13 (42%)	12 (39%)	5 (16%)	1 (3%)	0 (0%)

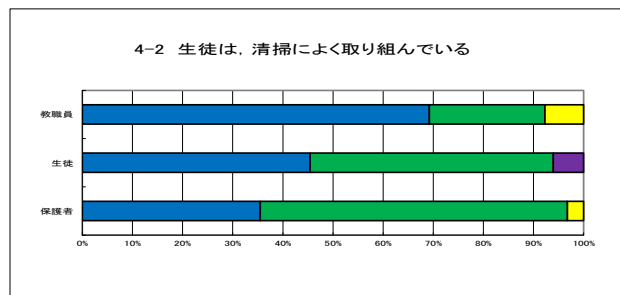
教職員は100%が、生徒は79%が、保護者は81%が肯定的な意見を示している。朝の全校読書や教育相談、授業規律の確保など、落ち着いた環境のある生活をめざした取組の成果が現れている。また、施設の修繕や掲示物の工夫など、教育環境の整備に努めてきたことで、落ち着いた環境が維持できている。今後も継続していきたい。



【4-2】生徒は、清掃によく取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	9 (69%)	3 (23%)	1 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	15 (45%)	16 (48%)	0 (0%)	2 (6%)	0 (0%)
保護者	11 (35%)	19 (61%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)

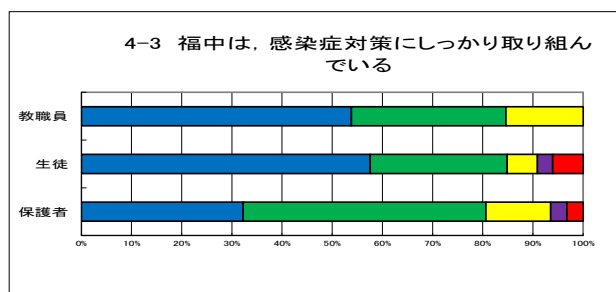
教職員は92%が、生徒は93%が、保護者は96%が肯定的な意見を示している。生徒は毎日の清掃活動に真面目に取り組むことができている。今後も生徒自身での清掃活動の振り返りや生徒会の委員会活動を積極的に行う中で、学校の環境美化に取り組んでいきたい。



【4-3】福中は、感染症対策にしっかり取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	7 (54%)	4 (31%)	2 (15%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	19 (58%)	9 (27%)	2 (6%)	1 (3%)	2 (6%)
保護者	10 (32%)	15 (49%)	4 (13%)	1 (3%)	1 (3%)

教職員・生徒は 85%，保護者 81%が感染症対策にしっかりと取り組んでいると回答した。昨年度に比べ「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した割合が 10%程度低くなったが、全体的にみると感染症対策にしっかりと取り組んでいる。生徒は検温や手指消毒など感染症対策が習慣化しており、毎日の健康観察表も忘れずに提出することができた。新型コロナウイルス感染症終息後も、これらの習慣の定着を図っていききたい。感染症対策が不十分との意見については、学校の取組への理解を深めるため周知・広報を行っていききたい。

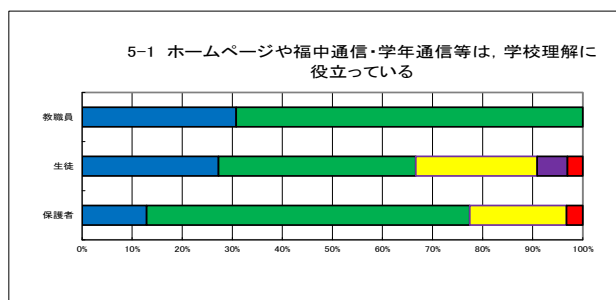


5 開かれた学校づくりに関すること

【5-1】ホームページや福中通信・学年通信等は学校理解に役立っている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	4 (31%)	9 (69%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	9 (27%)	13 (39%)	8 (24%)	2 (6%)	1 (3%)
保護者	4 (13%)	20 (65%)	6 (19%)	0 (0%)	1 (3%)

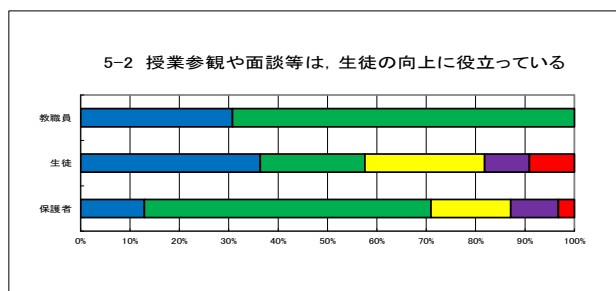
「そう思う」「ほぼそう思う」と答えた教職員は 100%，保護者は 78%，生徒は 66%となっている。「どちらでもない」「あまり思わない」「思わない」と答えた生徒は 33%，保護者は 22%であった。生徒の中には、福中通信や学年通信は読んでも、ホームページを知らなかったという生徒がいた。活動内容や予定表などの紹介をインターネット画面を見せながら紹介し、開かれた学校づくりにつなげたい。



【5-2】授業参観や面談等は、生徒の向上に役立っている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	4 (31%)	9 (69%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	12 (36%)	7 (21%)	8 (24%)	3 (9%)	3 (9%)
保護者	4 (13%)	18 (58%)	5 (16%)	3 (10%)	1 (3%)

「そう思う」「ほぼそう思う」と答えた教職員は 100%，保護者は 71%，生徒は 57%で意識の差が見られた。「どちらともいえない」と答えた生徒は 24%，保護者は 16%，「あまり思わない」「思わない」と答えた生徒は 18%，保護者は 13%であった。これらのことから、参観授業が一人一人の生徒の向上が見られる場になるよう工夫するとともに、面談等が個々の生徒の成長を伝えら



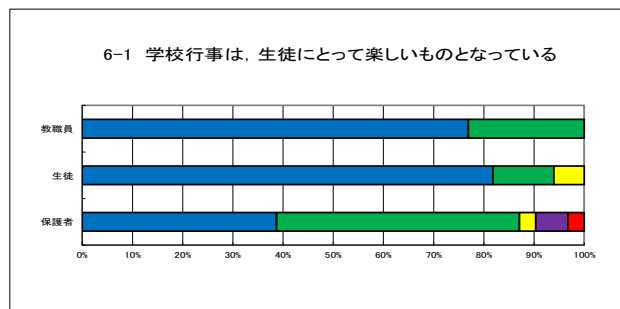
れる場になるよう見直していきたい。また、学校生活やPTA活動等でいただいた声を大切にしながら生徒の向上に役立てていきたい。

6 学校行事に関すること

【6-1】学校行事は、生徒にとって楽しいものとなっている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	10 (77%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	27 (82%)	4 (12%)	2 (6%)	0 (0%)	0 (0%)
保護者	12 (39%)	15 (49%)	1 (3%)	2 (6%)	1 (3%)

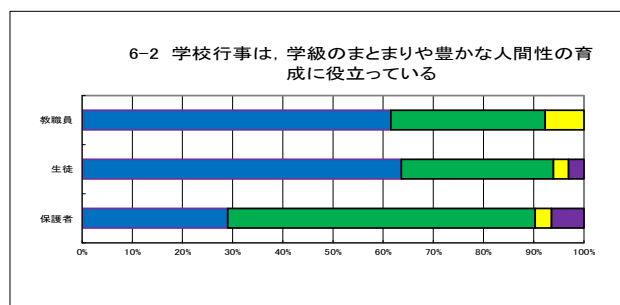
「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した教職員は100%、生徒は90%以上、保護者は80%以上が回答している。しかし、保護者の中には10%「あまり思わない」「思わない」との回答もある。新型コロナウイルス感染症対策で行事に制限がかかったりするなかで、生徒が行事を考えたり、主体的に活動できたことがよい結果に繋がったと考えられる。



【6-2】学校行事は、学級のまとまりや豊かな人間性の育成に役立っている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	8 (61%)	4 (31%)	1 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	21 (64%)	10 (30%)	1 (3%)	1 (3%)	0 (0%)
保護者	9 (29%)	19 (62%)	1 (3%)	2 (6%)	0 (0%)

生徒にも保護者にも少数ではあるが、「あまり思わない」という回答が見られる。新型コロナウイルス感染症対策で本来の予定通りに行事が行えないこともあり、全員の希望に沿うことは、なかなか難しいとも考える。そんな中でも生徒は自分たちでできることを考え、主体的に行事を計画・実行したことで、学級の仲間意識が高められ、他を思いやる気持ちが育まれたと考えられる。

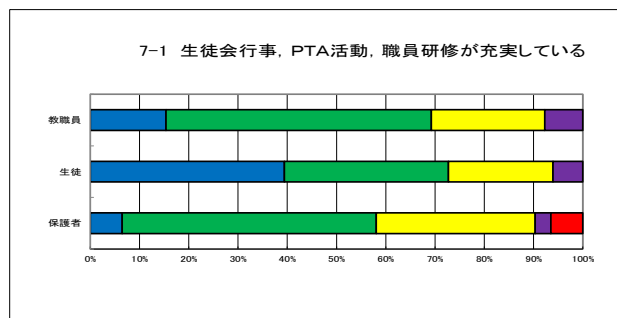


7 その他

【7-1】生徒会行事，PTA活動，職員研修が充実している。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	2 (15%)	7 (54%)	3 (23%)	1 (8%)	0 (0%)
生徒	13 (40%)	11 (33%)	7 (21%)	2 (6%)	0 (0%)
保護者	2 (6%)	16 (52%)	10 (32%)	1 (3%)	2 (6%)

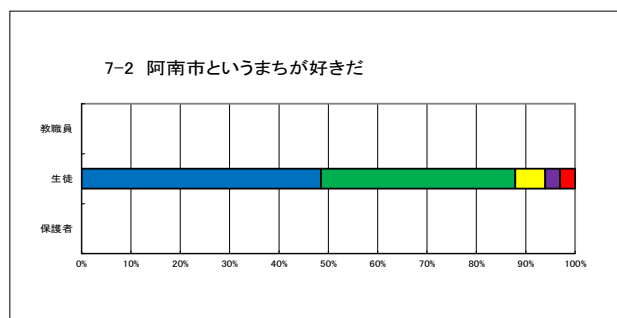
肯定的な回答をした教職員が 69 %，生徒が 73 %，保護者が 58 %となっており，三者の意識の差が見られる。また，否定的な回答をした教職員が 1 名，生徒は 2 名，保護者は 3 名であった。コロナ禍において，思うように活動できない状況もあるが，制限がある中で，充実した活動ができるように，各行事やPTA活動のあり方を考えていく必要があると感じる。



【7-2】阿南市というまちが好きだ。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
生徒	16 (48%)	13 (39%)	2 (6%)	1 (3%)	1 (3%)
保護者	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)

80 %以上の生徒が肯定的な意見をもっている。学年の枠を超えた人権学習や学校行事等を通して，福井町や阿南市のよさに気づくことができている表れだと感じられる。中には，否定的な意見をもっている生徒もいるため，地域のよさを見つける活動や，地域の人とふれあう機会をもうけ，福井町や阿南市のよさをあらためて感じる場を設けたい。



主なお意見・ご要望

※ 個々への要望については，掲載していません。

寒さ対策として，冬の間は膝掛けを許して欲しい。
朝練も大事ですが，朝勉とかも，週2回くらいしてほしい。

令和3年度福井中学校学校評価

1. 重点項目

- ① 自ら考え行動する生徒の育成
- ② 人権教育の推進
- ③ 学校全体で取り組む特別支援教育
- ④ 基本的な生活習慣を整え、授業や活動を通しての体力づくり

2. 評価基準

- A 十分に目標が達成された。
- B おおむね達成された。
- C 工夫改善が望まれる。

3. 評価活動計画

1月中旬に生徒・保護者・教職員のアンケートを実施して、その結果を参考にしながら学校評価委員会において自己評価を行う。

学校評価委員会（校長・教頭・教務主任・研修主任・人権教育主事・生徒指導主事・特別支援教育コーディネーター・養護教諭・事務室長）

2月中旬に、若竹教育推進委員会を開催し、学校関係者評価を行う。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、若竹教育推進委員会は紙面開催とし、学校関係者評価については、後日、各委員から文書にていただいたご意見等をもとに行うものとする。

自己評価

重点目標	自己評価
① 自ら考え行動する生徒の育成	B
② 人権教育の推進	A
③ 学校全体で取り組む特別支援教育	B
④ 基本的な生活習慣を整え、授業や活動を通しての体力づくり	A